五枚ノ
168

遍所健勝國の為め
去る廿五日 賀狀 殘暑未退
際國家重大の事件に
所盡力微の勞の
所業と存ぜらるる義
盲腸の疾患未だ癒ず
す時々疝痛に悩みつゝ
此頃漸く恢復に向ひ
上京はなお存ぜず家醫より

此頃は長船も病を勉めて
上京住なれ家醫より
目下の容体にて強て振
行せは必ず一層病勢を
加へ遂に回復すへからさる
不幸に陥るへくこは目下
養生こそ時に適し身体
を安理に運動するか如
きい務めて避けさるへからす
との戒告にて強て上京を
差留められ誠に以て
幾分千万第一身を犠牲
にしても厭はさるの決心にて
上京の途に就かれ居臣
等非常に心配し上京を
抑留せらられさるを
已に去る廿五日十分静養
出来の通常議會まで
に上京致す事に成り康体

扨再せつられ候所
已来ハ不系十分静穏
此方の通常議会まで
ハ上京差留ましく康体
この御様子を思ひ
議会開設の席に侍り右之
事情内々申上置迄

八月廿六日

直彬

大隈伯爵閣下
尊下